

第6学年 国語科学習指導案

指導者 三村 泰宏

1 単元名 調べたことをわかりやすく伝えよう（東京オリンピック「なるほど豆知識」）

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「江戸東京博物館の特別展『東京オリンピックと新幹線』をきっかけにして関心をもったことについて調べ、文章を書く」ことを位置付けた。10月の修学旅行で訪れた江戸東京博物館では、1964年の東京オリンピックにまつわる特別展が催されており、2020年に東京オリンピックが開かれることもあって、児童は関心をもって見学することができた。今回の学習では、特別展の内容から関心をもったことや疑問に思ったことを調べ、簡潔な文章にまとめていく。そのためには、複数の文章からの情報を整理し、引用を交えて書くことが必要となる。

これらの学習過程が、第5学年及び第6学年「B書くこと」(1)ア「考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること」、ウ「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」を実現するためにふさわしい言語活動であると考えた。

3 単元について

(1)児童観

平成26年度全国学力・学習状況調査B問題の結果を分析したところ、本学級では、他の設問に比べると、B②「科学に関する本や文章などを効果的に読む<動物の鼻>」の小問二に課題があることが分かった。解答の条件として、「字数の制限」、「二文を一文にする」、「例え」という言葉を使うという三つがあり、文字数の条件についてはほとんど満たしているものの、他の二つのどちらかができる傾向があった。また、事前の作文スキル練習では、文脈が通るように二文を一文にして書くことができていたのは*名で、一つの文にはできるものの、順序を考慮することを苦手とする傾向が見られた。また、推敲に関する調査では、書名に「」を付けて表すことができた児童は*名で、作文スキル練習で正しく引用部を表せた*名と併せて考えても、引用には慣れであることが分かった。

また、国語に関する意識調査では、「書くことが好き」「どちらかと言えば好き」と答えた児童が*名いたものの、「条件の指定が難しい」「文がねじれてしまう」との回答に見られるように、文章を書くことの難しさに悩んでいる実態がうかがえる。

書くことについてのアンケート（第6学年*組 *名）

平成*年*月*日実施

- 国語の学習で書くことは好きですか?
 - ・好き *名 どちらかといえば好き *名 どちらかといえばくらい *名 くらい *名
- 書くことで楽しいと感じるのはどんなことですか?
 - ・思いや考えが書ける 自由に書ける 思い出などを書ける 書き上げたときの達成感
 - ・メモや表をもとに文章を書く
- 書くことで難しいと感じるのはどんなことですか?
 - ・相手に分かりやすく伝わるよう書く 相手のことを考えて書く 句読点の打ち方
 - ・何を書けばよいか分からず 条件の指定が難しい 文がねじれてしまう

書くことに関する児童の実態

- 事前の作文スキル練習
 - ・文脈が通るように二文を一文にして書いている *名
 - ・「」を用いて正しく引用の部分を表して書いている *名
- 推敲に関する技能調査
 - ・正しく「～たり、～たり」を用いて書いている *名
 - ・行頭の「、」を訂正している *名
 - ・文体の間違いを訂正している *名
 - ・引用部分（書名）に「」を付けている *名

(2) 教材観

本単元は、今回の全国学力・学習状況調査で特に課題となった、小学校学習指導要領解説国語編における第5学年及び第6学年「B書くこと」の指導事項ウ「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」を受け、設定したものである。そして、学力調査問題のB②二「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く」という出題の趣旨に焦点化し、短時間で学習を行いたいと考え、相手意識や目的意識をより明確にもつことができる掲示物作りに絞ることとした。

児童は、各教科の学習を通じて、課題を設定し、それについて調べる活動には慣れてきている。しかし、複数の文章から材料を収集・選択して一つの文章にまとめる活動については、十分習熟していない児童が見られる。本単元の学習を通して、現在の児童に不足しているこのような力を補えるようにしたい。

(3) 指導観

本単元では、博物館の特別展を鑑賞して関心をもったことをテーマとし、調べて掘り下げたことを文章にする学習を設定した。

第一次では各自のテーマを決定するが、よりしっかりと相手意識をもたせるために、テーマについての意見交流を行い、参考とさせる。また、公立の図書館などを利用したり、聞き取り調査を行ったりさせたいので、二次の学習までに十分な時間をとりたい。

第二次の資料の読み取りにおいては、書籍や新聞などの印刷物資料を含むものとし、出典を明記させる。ウェブページの利用は補助的にし、書物を中心に行わせることで、情報の確かさについての意識を高めたい。得た情報を付箋を用いて整理する過程においては、苦労する場面も予想される。ペアやグループなどで交流させ、内容についてアドバイスし合いながら学習を進めさせたい。文章を書く場面では、主として引用の書き方に注意しながら、収集した情報を基に文章を構成していく。これらの調査・選材・編集の過程から、本校のテーマである「複数の内容を含む文や文章を分析的にとらえたり関係付けたりしながら書く」に結び付けていきたい。

第三次では、できあがったものを発表し合い、感想を交流する。

今回の学習から、児童は、自分の調べたことや考えを相手に分かりやすく伝えることについての考えを深めるであろう。小学校学習指導要領国語における第5学年及び第6学年「B書くこと」の目標である「適切に書こうとする」ことについての意識を高めるとともに、中学校学習指導要領国語第1学年の目標の一つである「目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる」へつなげていけるようにしたい。

4 単元の目標

- 関心をもったテーマについて、文章全体の構成を考えながら適切に書こうとする。
(関心・意欲・態度)
- 目的や意図に応じ、複数の文章から書く事柄を収集・精選して、全体の構成を工夫して書くことができる。
(書くこと)
- 目的に合った構成で、語句と語句との関係を考えながら文章を書くことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・関心をもったテーマについて、文章全体の構成を考えながら適切に書こうとしている。	・目的や意図に応じ、複数の文章から書く事柄を収集・精選して、全体の構成を工夫して書いている。	・目的に合った構成を選んで語句と語句の関係を考えながら文章を書いている。

6 単元の指導計画（5時間扱い） ○は本時

主な学習活動	主な評価
第1次 1 学習の趣旨を理解し、関心をもった内容について紹介する学習に関心をもつ。テーマを決定し、学習計画を立てる。 ※ 図書館での調査や当時の様子を知る人のインタビューなど、多様な調査ができるよう、指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・関心をもったテーマについて、文章全体の構成を考えながら適切に書こうとしている。 (関心・意欲・態度)
第2次 1 決定したテーマに基づき、掲示物の方向性を決め、資料となる文章の内容を付箋に整理し、文章の「はじめ」の部分を書く。 ② 付箋に整理したことを基に、引用の仕方に気を付けて、文章の「中」を書く。 3 文章の「終わり」を書いて、掲示物を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読んでいる。 (書く能力) ・内容を整理した付箋を基に、引用の仕方に気を付けながら、文章を書いていている。 (書く能力) ・複数の文章から、書く事柄を収集・編集して、全体の構成を工夫して書いてている。 (書く能力) ・目的に合った構成を選んで、語句と語句の関係を考えながら文章を書いてている。 (言語についての知識・理解・技能)
第3次 1 完成したものを互いに読み合って、感想を交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の文章を読んで、表現が工夫されているところや、直すとよいところを書いて伝えている。 (書く能力)

7 本時の学習

(1)目標

内容を整理した付箋を基に、引用の仕方に気を付けながら、文章の「中」の部分を書くことができる。
(書くこと)

(2)準備・資料

ワークシート、学習計画表、ビデオカメラ、プロジェクタ、スクリーン
お宝カード、モデル例

(3)展開

学習活動・内容	指導上の留意点
1 本時の学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content;"> ふせんをもとに、引用の仕方に気をつけて、文章の「中」の部分を書きあげよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に付箋に整理した情報を基に、引用の書き方に注意しながら、それらを組み合わせて文章を書くことを確認し、本時のねらいを明確化する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 黄色付箋…書物・新聞からの情報 青色付箋…ウェブサイトからの情報 緑色付箋…聞き取りして得た情報 </div>
2 付箋に整理した情報を組み合わせて、文章の「中」の部分（本論）を書く。 (1) 付箋に整理した内容を基に、文章を書き上げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか書けないでいる児童には、モデル例を参考にして文章のイメージをとらえ、お宝カードを参考にして引用の部分を書くように助言する。

〈モデル例〉

ウェブサイトで調べたところ、「当時、東京＝新大阪間は、4時間かかっていましたが、次々とスピードアップが図られ、2007年には2時間25分に短縮された」ということが分かりました。

日本の新幹線のすごさは速さだけではありません。新幹線は、40年以上にわたって、乗客が死亡するような事故は起こしていません。『日本の産業まるわかり大百科5』(ポプラ社)には、「速さと安全であることをあわせもった新幹線が日本で成功したことは、世界の国々で鉄道の価値を見直すきっかけになりました。」と書かれています。

- (2) 書き終えた児童は各自推敲を行い、文章を見直す。

本時における推敲の主な観点

- ・引用は適切になされているか。
- ・文のねじれはないか。
- ・分かりにくい表現はないか。

〈推敲による訂正例〉

- ・「(書名)」には、○○だそうです。
- ・「(書名)」には、○○と書いています。
→「(書名)」には、○○と書かれています。

- 3 書き上げた文章を互いに読み合い、表現のよいところを伝えたり、アドバイスしたりする。
- ・分かりやすく書いていることを伝える。
 - ・文章の不自然な部分について気付き、解決の方法について話し合う。

- 4 書いた文章や推敲を行って直した点などを発表し、全体で共有する。

- ・自分の気がつかないところを友達に直してもらって正しい文になった。
- ・引用の仕方を覚えられた。
- ・資料の文を引用して書くことができた。
- ・意味のつながりを考えて、分かりやすい文を書くことができた。

- 5 本時の学習を振り返り、次時の内容を知る。

- ・「」を用いて引用する方法を覚えた。
- ・お宝カードを参考にして、正しく引用することができた。

〈お宝カード〉

- ☆ 『ポプラディア5』(ポプラ社)には「～」と書かれています。
- ☆ ウェブサイトには、「～」と書かれていました。
- ☆ ウェブサイトで調べたところ、～ということが分かりました。
- ☆ ○○さんは、「～」と言っていました。

- ・文字の間違いに目が向きがちであるが、「引用が適切に行われているか」を中心に推敲させることで、本時の目標に迫りたい。
- ・推敲までを早く終えた児童には、教室の後方に移動して相互に読み合い、アドバイスするように助言する。

評価（書くこと）
情報を整理した付箋を基に、引用の仕方に気を付けて文章を書いている。

(ワークシート)

- ・引用の書き方が不自然なところや文章のねじれは、自分では気付きにくい部分なので、相互に読み合うことで、気付きを促したい。また、文章の分かりにくさ箇所への言葉の追加などについても、検討できるように助言したい。

- ・各自が書いたものや推敲で直した点を共有することで、友達の文章のよさに気付いたり、気を付けて書くべき点を意識したりして、本時の自らの学びを認識させたい。
- ・きちんと引用して書けている文章を取り上げて、そのよさを紹介することで、意欲付けを行う。

- ・振り返りカードに記入して、本時の学習を振り返る。学習の成果や課題を意識とともに、次時の学習内容を知り、意欲が高まるようにする。